

キャラクター名
清姫 (旧姓：真砂)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ハヌマーン		ワークス	大陸浪人	カヴァー	
	オプション		年齢		性別	女
覚醒	生誕	衝動	妄想	初期侵食率	31	%
出自	名家の生まれ	経験	喪失	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	3	1	1			5	行動値	4
感覚	1		0			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	2		0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報: 神秘	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
混沌なる者の槍	白兵	5r+1	4	12		シンドローム2種を使用した場合ダイス+2
C+フレイムタン+吼え猛る爪	白兵	7r+1		4		合計コスト6
快男児適用時	白兵	10r+1				
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	
コネ：要人への貸し	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
快男児	P	N		
両親	P 好意	N 恐怖		
元婚約者	P 慕情	N 恐怖		
師匠 (天花寺・大悟)	P 尊敬	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
C:サラマンダー	3	2	MJ			シ		
効果:	C値-Lv (下限7)							
フレイムタン	1	2	MJ	視界		白兵		
効果:	射程を視界に 攻-「5-Lv」							
吼え猛る爪	1	2	MJ	武器		白兵		
効果:	装甲無視。攻-「5-Lv」							
氷雪の守護	3	3	オート	至近	自身			
効果:	ダメージ「Lv+1」D 1R1回							
ダイヤモンドダスト	1	3	オート	至近	自身		リミット	
効果:	氷雪の守護の効果さらに-3 d							
吹雪の守護	1	2	オート	至近	範(選)		80%	
効果:	氷雪の守護を範囲に変更							
炎陣	1	2	オート	至近	自身			
効果:	カバーリングを行う							
異形の痕	1							
効果:								
真偽感知	1							
効果:								
軽功	1							
効果:								
熱感知知覚	1							
効果:								
超越者の眼力	1							
効果:								
効果:								
効果:								

「わたくしは、別に自分を善人だと思ってはいません。人助けを当たり前だと思っていません」
「けれど……わたくしが、誰かの涙を見過ぎてしまえば」
「——わたくしは、わたくしの涙を拭ってくれたお師匠様に顔向けできなくなるではありませんかっ！」

天花寺・大悟に拾われた少女。オーヴァードとして覚醒した際に、頭部から『角』が生えたという特徴を持つ。元は名家の生まれであり、幼い頃から決まっていた年上の婚約者を慕いつつ、幸せに過ごしていた。

しかし、その『角』と異能を見た両親と婚約者は彼女から逃げ出してしまふ。それを必死に追いかけ、無意識に発動した<ワーディング>によって足を止めた彼らに追いついた少女が見たのは、恐怖に固まった愛する両親と慕っていた『元』婚約者の顔だった。

その後、現実から逃げ出すように当て所なく走り、どことも知れぬ山の中で泣き崩れていた彼女は天花寺・大悟に拾われ、弟子となる。

そして、今の彼女が目指すなり方は『師に誇りと思ってもらえる弟子であること』。そのために彼女は快男児の生き様を継ごうとしている。そうすれば、いつか己の前から師が去って行った後も、辛くても一人で生きていけると思うから

天花寺・大悟の弟子ではあるものの、彼の超人的な体術や武術は受け継いでおらず、代わりに彼の教えを元に独自の仙法を用いる。

【仙技：火尖槍】 <C:サラマンダー>+<フレイムタン>+<吼え猛る爪>+混沌なる者の槍
□□太子が使ったとされる炎の槍の再現。その槍は百里先まで届き、硬き鎧を貫く